

■一般目標

虐待という行動と被虐待児の医学的診断、社会的側面について深く理解し、見識を持った上で、個々の事例について適切な医学的・社会的対応を各職種と連携して行い、院外関係機関と連携し、また虐待に関する研究活動、教育啓発活動に参加できること。

■当院の特徴

当院は、虐待、またそれに限らず養育支援が必要な家庭の子どもを広く含め、年間 100 例以上を対象として SCAN(suspected child abuse & neglect)チームで対応しており、症例、経験が豊富である。医学的側面、心理的側面、社会的側面各々の専門家を揃えてチームとして、困難な症例にも対応している。開院以来 1000 例を越える対応経験があり、国内有数の実績をもとに、虐待や養育支援について、発信していく使命も負っている。

■各論：獲得目標

- ・虐待に関する研究活動を行い、発表、論文化を行う
- ・CDR(Child death review)の確立に向けた活動に関わる
- ・虐待に関する教育、啓発活動に関わる

一般的対応

- ・院内 SCAN 依頼について、必要な場合を理解し、依頼を行うことができ、指導ができる
- ・SCAN カンファレンスについて、必要な情報を収集し、過不足なく議論を行い、判断し、指導ができる
- ・虐待のカテゴリー分類について理解し、分類し、指導ができる
- ・児童相談所などへの通告について、必要な場合を理解し、判断し、指導ができる
- ・通告したことの告知について、適切に行い、指導ができる
- ・保健所、役所、子ども家庭支援センターなどとの地域連携について、適切に行い、指導ができる
- ・児童相談所からの一時保護委託について、受託の適切な判断ができ、指導ができる
- ・夜間休日の SCAN 対応について、適切な対応の判断ができ、指導ができる
- ・特定妊婦について、その子どもを含めた対応ができ、指導ができる
- ・警察への通報について、必要な場合を理解し、適切に行い、指導ができる
- ・他機関からの虐待に関するセカンドオピニオンについて、適切な対応を行い、必要に応じて専門家への依頼ができる

- ・身体的虐待の診断と対応について、適切に行い、指導ができる
- ・ネグレクトの診断と対応について、適切に行い、指導ができる
- ・性的虐待の診断と対応について、適切に行い、指導ができる
- ・心理的虐待の診断と対応について、適切に行い、指導ができる
- ・MSBP の診断と対応について、適切に行い、指導ができる
- ・虐待診断における画像診断、また眼底検査等の専門的検査について、適応を理解し、適切に依頼し、解釈し、指導ができる
- ・子どもの生活安全対策室の活動に年間を通して積極的に関わり、マニュアル作成などの活動に主体的に参加する

■研究活動

- ・虐待関連死亡事例のまとめ、虐待分類（身体的虐待、ネグレクト、その他）各々のまとめ、通告事例のまとめ、その他、当院の SCAN 対応実績をもとに、虐待／養育支援に関する様々な側面の後方視的研究を行う
- ・当院および日本での CDR パイロット調査への参加、登録、抽出、および検討作業への参加
- ・その他、関心ある事柄

■関連学会

日本小児科学会

日本子ども虐待防止学会

日本子ども虐待医学会

日本小児保健協会

日本小児科医会

その他